



電車で席を譲りませんか？

村井俊治

電車の中で若者から最初に席を譲られたときはショックでした。若いつもりでも若者からは年寄りに見られたのだという落胆がありました。65才前です。高齢者にはなっていない感でしたが、その日はきっと疲れた顔をしていたのでしょう。一方で嬉しくもありました。最近の若者は、年寄りが近づいても眠った振りをし、知らん振りをして席を譲りません。年寄りに心を配ってくれた若者が居たことが嬉しかったです。

最近70才近くなりましたので、電車の優先席が空いているときは座らせてもらっています。不思議なことは、優先席にどう見ても健康な若者が座っていることです。空いている電車ならそれでも良いでしょう。立っている人がいるような状況でもそうなのです。優先席では、パルスメータを埋め込んでいる老人のためにケータイをしてはならないのに、ケータイメールをしている人までいます。残念ながら、私はこのような若者に注意をする勇気を持っていません。自分でも不甲斐ないのですが、できないのです。

そこで私ができることは、私より年取っているように見える老人、特に老婦人が近くに居たら席を譲ることです。多少大きめの声を出して自分の席に誘導します。おばあさんなら手を取ってあげます。負け惜しみではないですが、この行動は結構気持ちよいです。若い老人が先輩の老人に席を譲るのです。さわやかになります。タイではタンブン（徳を積む意味）といいます。

このとき問題があります。席を譲られた老人は素直に感謝して席を譲られなくてはいけません。「次の駅で降りますから結構です」などと言って断る方がいます。勇気を持って席を譲った者の心を台無しにしてしまいます。若者は席を譲りたくなくなるかもしれません。私は席を譲られたら「ありがとう」と言います。そして嬉しい顔をします。そぶりではなく本当に嬉しいです。

素直に他人の助けを受け容れることは、とても大事だと思います。電車の席の譲り合いだけでなく、転倒をしたり、怪我をしたりした時、助けを差し伸べてくれた人に助けてもらいます。世代を通じて伝承すべき伝統であるべきでしょう。韓国の若者はほとんど全員年寄りを労わります。日本に来た韓国人が電車に乗って、若者が老人に席を譲らないのをみて本当に驚いたと言います。日本人として恥ずかしいです。どんな若者でもいずれは老人になります。常に元気溌刺な老人で居られる保障はありません。長い将来を考えればわが身の問題です。

もし、自分に体力と勇気が残っているなら、老人になっても、さらに年を経た老人を助けようではありませんか？

